

昭和八年四月、神戸、和歌山の市會選舉戦に立候補し、特に神戸の赤腸尾一君は、早く健闘したが、非階級的の叩き落としのため惜敗した。

九年一月、横浜市會總改選に森柴一君立候補、無産団体濫立のうちに戦つたが、遂に高笑を以て當選した。

八年六月、大阪にも市會の選挙があつたが無産団体の対立抗争を醜とし、自らは立候補せず主として日本労働組合總連合の立候補者を應援した。

而して以上、立候補に際しては、殆んどみな總聯合の名の下に立候補し、いづれも當選又は次良であつて、相當の成績をあげたのである。

その他前年度大會決定事項たる法律改正その他を首相、内相、社會局長官等に陳情し、且つ実現に努力するところがあつた。また京濱船夫組合が中心となつてゐる健康保険法に「船船夫及び港湾労働者」を加ふべきことを當局に陳情した。

甘日各聯合會とも種々の活動が行はれ、東京聯合會の不潔水道糞の指令、或ひは船夫組合の水上方面委員登新に関する要求、その他いづれも關係方面に提出し、種々

活動するところがあつた。

争議部

労働争議の数量的觀察

労働争議も件数に於て昭和六年の二千四百五十六件を最高とし、人員に於て昭和五年の十九萬一千八百五人を最大としてその後は減少しつつある。それは左表の示す通りである。

過去十年間に於ける争議調

年次	労働争議 總件数	労働争議 總参加人員	争議 参加人員
大正十二年	六四七	六八八一四	一〇六
大正十三年	九三三	九四〇四七	一〇一
大正十四年	八一六	八九三八七	一〇〇
大正十五年	一二六〇	一二七、二六七	一〇一
昭和二年	一二〇二	一〇三、三五〇	八六